

近時の村落景観変貌の素地

——岡山県吉備高原農村の場合—— (I)

神 立 春 樹

目 次

- 1 本稿の課題
- 2 対象地域の概観
- 3 農業生産の状況
 - (1) 農産物販売第一位部門の変化
 - (2) 主要作物の推移
- 4 農家の状況
 - (1) 農家数, 専業兼業別の推移
 - (2) 労働力保有状態別農家数
 - (3) 農業従事者の推移
 - (4) 経営耕地規模別構成の推移
- 5 耕地利用の変化
 - (1) 経営耕地面積の推移
 - (2) 耕地貸借, 作業請負
 - (3) 耕地利用状況
 - (4) 耕作放棄地
 - (5) 採草地・放牧地の利用放棄・・・以上本号
- 6 農業集落の変貌
 - (1) 世帯・人口の推移と就業構成の変化
 - (2) 農業集落の混在化傾向の進展
 - (3) 農業集落の土地転用と土地基盤の変化
 - (4) 農業集落の機能の変化
- 7 結び

1 本稿の課題

筆者はこれまでに、村落景観論の観点から、村落景観変貌の素地である農業集落の変貌についての検討を行なってきた⁽¹⁾。それを、農林業センサスの「農業集落調査」に主として依拠する統計的検討として行なっている。これまでに、農業集落における変貌はその類型によって多様であることを統計的に明らかにし、類型的に異なる集落についての個別的研究が必要なことを指摘した。さらに、そのような個別的な対象を選択するために、多様な類型の集落を包摂する岡山県についての検討を行なった。

岡山県下のすべての類型の農業集落においてその変貌は著しいが、その変貌には対蹠的な二つのタイプがある。その一つは都市的集落における変貌である。都市的集落は岡山県の場合は岡山市の周辺の岡山平野部にあるものなどであり、そこは元来は豊かな水田農業地帯であったが、都市化のストレートな影響によって変貌している。住宅地化、工場用地化による混住化・都市化の進展が著しく、農業生産基盤は弱体となり、農業集落としてのまとまりもくずれてきている。

これと対蹠的なのは山地村山村的集落のそれである。山地村山村的集落は山村であるにもかかわらず従来一定の農業生産基盤があったが、農業生産の担い手の流出などにより農業生産が衰微し、農業集落もそのまとまりを継続しがたいものともなる。

この二つを両極とした多様な変化がみられる。この変貌についての立ち入った検討は個別的な地域についての検討によって果される。その対象とし

(1) 筆者のこれまでのこの問題に関するものとして、「戦後農業集落の変貌—村落景観論的考察の前提としての統計的素描—」『岡山大学経済学会雑誌』第20巻第1号 1988年、「岡山県にみる戦後農業集落の変貌—『農業集落調査』にもとづく統計的概観—」同前誌 第20巻第3号 1988年、「戦後農業集落の変貌の諸相—農業集落類型的検討—」同前誌 第20巻第4号 1989年、がある。

ては、先ほどの集落変貌のタイプからみて、いまや都市化の進行の著しい県南部の肥沃な平野部・干拓地農村地、そして一方での過疎的現象が著しい県中北部の吉備高原・中国山地農村、これらが恰好のものとなるであろう。本稿はこの後者について、事例を求めて検討するものである。対象とするのは、吉備高原上の二つの町、御津郡加茂川町と上房郡賀陽町である。

以下、本稿は、対象地域の概況、農業生産の状況を概観した後、村落景観の担い手である農家の状況を検討する。ついで、村落景観を構成する耕地景観と集落景観の変貌にかかわる耕地の利用状況と農業集落の状況を検討する。

2 対象地域の概況

この二つの町が立地する吉備高原についてはつぎのように記されている。⁽²⁾
 吉備高原は、中国山地から瀬戸内低地帯に至るまでの間に展開する標高200～600メートルの高原状の山地であり、1908年小藤文次郎により隆起準平原であると指摘され吉備高原と命名された。ここは岡山県の約3分の2の面積を占め、多くの町村がこの高原上に立地しており、狭い谷底は交通路としての役割を果たしている。一般に波浪状地形である高原上は、波の部分に相当するなだらかな丘は松林となり、その斜面に集落、畑地が発達し、波の谷の部分に相当する広く浅い凸凹地は湿田で、県南部の沖積平野に比べると畑地率の高いところである。岩石の風化が進み土壌は深く、粘土化した赤土が分布する。土壌に適合した作物が特産的に栽培されているが、高原上は交通の便には恵まれず、労働生産性の低い農業以外には仕事が少ない。過疎化現象が著しい。

(2) 以下の、吉備高原、加茂川町、賀陽町の概況は『岡山県大百科事典』の該当項目、ならびに両町の「町勢要項」(1989年度)などによった。

加茂川町は、岡山県の中央に位置し、岡山市の北40kmのところにある。標高120～580メートルの中国山脈の枝脈が重疊する吉備高原上にある町で、その所々に田畑、集落、人家が点在する。標高400～500メートルの円城の高原から南流する宇甘川水系と、東に流れ旭川湖に注ぐ豊岡川水系の二水系があり、それによって分断されているところである。これら水系の小河川ぞいに平野部が開けている。1988年度の「町勢要覧」によれば山林原野が74.3%を占めるといふ山林面積の大きい山村である。1960年を始点とした人口、世帯数の減少率のきわだって大きい町村は多く県北、中国山地地域にあるが、ここ加茂川町は、備中町、成羽町などとともに、県央部において過疎現象が顕著に展開したところである。交通の便が悪く、労働生産性の低い農業以外に産業がない。近時、この加茂川町から賀陽町にかけて吉備高原都市が建設されているところである。

第1表は、この両町の1985年の農業概況を示すものである。加茂川町についてみる。農家1戸あたりの経営耕地は68 a、水田率68.8%であり、水田率は全県（78.1%）より小さいが、1戸あたり耕地面積は全県（61 a）よりやや大きい。農家の専業兼業別構成は専業22.1%、第一種兼業16.2%、第二種兼業61.7%で、全県（それぞれ13.2%、9.8%、76.8%）と比較して専業農家、そして第一種兼業の割合はかなり大きく、第二種兼業は小さい。農家のうち専従者なし53.3%は全県（73.4%）よりはるかに小さく、他方男子専従者あり33.1%は、全県（19.2%）よりはるかに大きい。また農家1戸あたりの基幹的農業従事者は0.91人で全県（0.58人）と比較してかなり大きい。

農家100戸あたり耕耘機・トラクターも128.3台と普及し、全県（109.7台）を上回っている。自脱型コンバイン（24.8台、全県29.2台）をのぞき、この動力耕耘機・農用トラクターのほか、動力田植機（55.3台、全県49.4台）、動力防除機（56.6台、全県54.9台）、バインダー（53.8台、全県42.1台）、米麦用乾燥機（59.1台、全県43.3台）のいずれにおいても、その数は全県を上回る。

第1表 1985年農業概況

		加茂川町	賀陽町	岡山県
1戸あたり経営耕地面積		68 a	98 a	61 a
水田率		68.8 %	74.5 %	78.1 %
専業兼業別	専業	22.1 %	17.2 %	13.2 %
	第1種兼業	16.2 %	19.4 %	9.8 %
	第2種兼業	61.7 %	63.4 %	76.8 %
自家専業状況	専業者	53.3 %	50.0 %	73.4 %
	男子専業者あり	33.1 %	36.8 %	19.2 %
1戸あたり基幹的農業従事者		0.91人	0.94人	0.58人
農産物多額販売農家数	多額販売農家数	17戸 17戸 19	47戸 23戸 39	1,631戸 984戸 1,515
	販売農家数の比率	1.1 % 1.1 % 1.2	2.6 % 1.3 % 2.1	1.3 % 0.77 % 1.2
農産物販売部門	第1位	稲作 68.0 %	稲作 86.1 %	稲作 73.3 %
	第2位	工芸作物 10.0 %	工芸作物 5.2 %	果樹 5.2 %
	第3位	その他作物 5.5 %	酪農 3.9 %	野菜 4.2 %
農家100あたり耕耘機・農用トラクター台数		128.3台	130.6台	109.7台

註1) 『1985年農業センサス第1巻都道府県別統計書 岡山県』より作成。

2) 農産物多額販売農家欄は上段1000万円以上、中段700万円～1000万円、下段500万円～700万円である。

年間農産物販売額1000万円以上農家(17戸)割合は1.1%と全県(1.3%)をやや下回る程度である。販売金額上位部門とその農家割合は第一位部門稲作68.0%と全県(73.3%)をやや下回る程度であるが、第二位工芸作物は10.0%、第三位果樹5.5%であるなど多様である。吉備高原上にあつたばこ、蔬菜(白菜)などを産出する比較的農業基盤のあるところである。

上房郡賀陽町はこの加茂川町に隣接する同じく吉備高原上の町で、標高300～400メートルである。1988年の「町勢要覧」によれば林野が67.4%を占める山村である。大きな川に分断される

ることがないので、豊野盆地や八丁畷などの広い平坦面がある。このため、耕地面積も広く、水田率は約75% (1975年) に及び、吉備高原上では珍しい穀倉地帯をなしている。ここでも人口は減少し、加茂川町と同様に過疎化の

様相を呈している。

農家1戸あたりの経営耕地は98a，水田率74.5%であり，水田率は全県よりやや小さいものの，1戸あたりは全県よりかなり大きい。農家の専業兼業別構成は専業17.2%，第一種兼業19.4%，第二種兼業63.4%で全県と比較して専業農家，そして第一種兼業の割合はかなり大きく，第二種兼業は小さい。農家のうち専従者なし50.0%は全県よりはるかに小さく，他方男子専従者あり36.8%は，全県よりはるかに大きく，それらは加茂川町のそれよりも著しい。また農家1戸あたりの基幹的農業従事者は0.94人で全県と比較してかなり大きく，加茂川町を上回る。

農家100戸あたり耕耘機・トラクターも130.6台で，加茂川町よりいっそう大きい。米麦用乾燥機（31.2台）をのぞき，この動力耕耘機・農用トラクターのほか，動力田植機（60.0台），動力防除機（63.8台），バインダー（49.5台），自脱型コンバイン（44.2台）のいずれにおいても，その数は全県を上回る。その上回り方は加茂川町より著しい。年間農産物販売額1000万円以上農家（47戸）割合は2.6%と全県の2倍のウェイトである。販売金額上位部門とその農家割合は第一位部門稲作86.1%と全県を上回っており，ついで第二位工芸作物5.2%，第三位酪農3.9%など多様である。吉備高原上にあつて水稻作地帯であり，それにたばこ，酪農などの展開している確固たる農業基盤のあるところである。

このように，吉備高原上に隣接してあるこの両町は，ともに農業基盤があるところである。同じ吉備高原上に隣接し，大きくは同様の傾向を辿るであろうこの両地域の変貌の違いを比較しつつ，農業生産の状況，農家の状況，土地利用の変化，集落の変貌をみていくこととする。

3 農業生産の状況

(1) 農産物販売第一位部門とその変化

第2表は農産物販売第一位部門とその変化を示す。

加茂川町 1965年、ここは稲作62.0%、工芸作物28.4%と、両者で90.4%を占めるという、稲作とたばこのウェイトが圧倒的に多いところであった。それが、工芸作物を第一位とする農家がこの間に518戸から132戸へと実に386戸減少した。其他作物、果樹などを第一位とするものがかなりあらわれているが、この工芸作物第一位農家の大きな減少によって、稲作を第一位とする農家のウェイトは高まっている。

賀陽町 1965年、ここも稲作67.4%、工芸作物7.9%と、両者で95.3%を占めるという、稲作とたばこのウェイトが圧倒的に多いところであった。それが、工芸作物を第一位とする農家がこの間に557戸から239戸へとこれまた実に318戸減少した。しかし、ここには酪農第一位9戸がそれにつぐものとはいえそのウェイトは1.5%にとどまっている。ここでも稲作を第一位とする農家のウェイトは大きくなっている。

この両町はともに稲作とたばこに大きく依拠してきたところであるが、たばこ作の停滞が進んだ。加茂川町ではやや多様化の模索があるが、賀陽町は一部に酪農が導入されているものの、全体としては稲作への傾斜をいっそう強めてきているといえる。

(2) 主要作物の推移

第3表は主要作物の推移を示す。水稲作は、1960年から85年の間、全県は30,728ha、率にして38.5%減少しているが、加茂川町は424ha、率にして41.2%、賀陽町は544ha、34.2%の減少がみられた。加茂川町は全県より大きく、賀陽町は全県より小さい。この間に稲作農家数も減少しているが、加茂川町においては減少率34.8%で全県の30.1%を上回り、賀陽町は24.1%で全県を下回っている。加茂川町において稲作がより減少しているのである。こ

第2表 農産物販売金額1位の部門別農家数

		農産物販売農家数	稲 作	工芸農作物	野 菜 類	果 樹 類	その他の作物	酪 農
加 茂 川 町	1965年	1,821 戸	1,129 戸 62.0%	518 戸 28.4%	30 戸 1.6%	4 戸 0.22%	6 戸 0.33%	31 戸 1.7%
	70	1,764	1,150 65.2	402 22.8	46 2.6	12 0.68	22 1.3	59 3.3
	75	1,519	1,076 70.8	181 11.9	51 3.4	11 0.72	72 4.7	49 3.2
	80	1,414	998 70.6	138 9.8	39 2.8	40 2.8	98 6.9	39 2.8
	85	1,322	899 68.0	132 10.0	27 2.0	73 5.5	77 5.8	22 2.4
賀 陽 町	1965年	1,994	1,343 67.4	557 27.9	5 0.25	0 0	8 0.40	59 1.5
	70	1,961	1,401 71.4	431 22.0	4 0.20	3 0.15	2 0.10	84 4.3
	75	1,802	1,361 75.5	280 15.5	8 0.44	7 0.39	6 0.33	85 4.7
	80	1,745	1,355 77.7	193 11.1	7 0.40	6 0.34	10 0.57	84 4.8
	85	1,663	1,247 75.0	239 14.4	8 0.48	6 0.36	5 0.30	67 4.0
岡 山 県	1965年	161,737	81,162 50.2	23,442 14.5	3,610 2.2	7,045 4.4	1,052 0.65	3,259 2.0
	70	131,293	83,307 63.5	15,450 11.8	4,000 3.0	5,928 4.5	1,278 0.97	3,579 2.7
	75	113,825	81,941 72.0	6,233 5.5	4,651 4.1	5,853 5.1	1,954 1.7	2,596 2.3
	80	107,056	77,037 72.0	4,736 4.4	4,780 4.5	5,599 5.2	2,287 2.1	2,219 2.1
	85	100,424	73,659 73.3	3,738 0.34	4,267 4.2	5,226 5.2	2,299 2.3	1,872 1.9

註1) 『1965年農業センサス岡山県統計書』、『1970年世界農林業センサス岡山県統計書』、『1980年世界農林業センサス岡山県統計書』及び第1表と同一書より作成。

2) パーセント欄は販売農家数中の比率。

第3表 主要農作物の推移

	水 稲			た ば こ			
	収 穫 農 家 数	収 穫 面 積	1 戸 あ た り 面 積	収 穫 農 家 数	収 穫 面 積	1 戸 あ た り 面 積	
加 茂 川 町	1950年	2,403戸	1,065ha	0.443ha	793戸	58ha	0.073ha
	60	2,134	1,028	0.482	591	88	0.149
	65	1,982	1,005	0.507	568	168	0.296
	70	1,829	938	0.512	483	183	0.379
	75	1,615	959	0.593	202	104	0.515
	80	1,492	648	0.434	162	97	0.599
	85	1,392	604	0.433	135	84	0.622
	増 減	-742 (-34.8)	-424 (-41.2)	---	-456(-77.2) -348(-72.0)	-4(0.45) -99(-54.1)	---
賀 陽 町	1950年	2,263	1,544	0.682	794	70	0.088
	60	2,254	1,589	0.704	882	147	0.167
	65	2,110	1,505	0.713	853	282	0.331
	70	2,042	1,450	0.710	751	272	0.362
	75	1,881	1,250	0.665	362	155	0.428
	80	1,801	1,110	0.616	272	131	0.482
	85	1,075	1,045	0.612	261	135	0.517
	増 減	-549 (-24.4)	-544 (-34.2)	---	-621(-70.0) -592(-69.4)	-12(-8.2) -147(-52.1)	---
岡 山 県	1950年	163,921	78,502	0.478	22,235	1,792	0.080
	60	160,932	79,715	0.495	17,620	2,750	0.156
	65	152,424	76,897	0.504	17,658	4,554	0.257
	70	144,921	73,792	0.509	12,854	4,271	0.332
	75	128,418	59,429	0.462	4,286	1,987	0.463
	80	120,282	51,802	0.430	3,565	1,996	0.560
	85	112,414	48,987	0.435	2,948	1,736	0.588
	増 減	-48,518 (-30.1)	-30,547 (-38.5)	---	-14,672(-83.3) -14710(-499.0)	-1014(-36.9) -2818(-162.3)	---

註1) 『1960年世界農林業センサス市町村別統計書 岡山県』並びに第2表と同一書より作成。

2) 増減欄は1960～1985年間の増減数および増減率、下段は面積最大時～85年間のそれ。()内は増減率%。

の稲作の減少は、いうまでもなく、1970年から始まった稲作減反（生産調整）という国の政策の結果である。

もう一つの共通の作物であるたばこについてみよう。加茂川町では、1960年88haであったが、65年には168ha、70年には183haとなって、以後減少にむかい、85年には84haとなった。最大時（1970年）からの減少率54.1%であった。この間、たばこ作農家は591戸から一貫して減少し、85年には135戸となった。1戸あたり0.15haから0.62haとなった。賀陽町は1960年147haであったものが65年には282haとなり、以後減少していき、80年131ha、85年135haとなる。最大時（65年）から52.1%の減少となっている。この間、たばこ作農家は882戸から261戸へと一貫して減少している。1戸あたりは0.17haから0.52haとなっている。両町ともに、65年、あるいは70年をピークとして、栽培面積は大きく減少するが、同時にたばこ作農家はそれを上回る減少をみせた。零細たばこ作農家が消え、一定規模のものが残ってきた。

両町ともに水稻とたばこを主要作物としてきたが、いずれも減少してきている。ことにたばこ作の場合は著しい。

4 農家の状況

(1) 農家数、専業兼業別の推移

第4表は農家数、専業兼業別の推移を示す。

加茂川町 農家数の推移をみると、1960年から1985年の間に660戸、率にして30.0%の減少があった。

この間に専業農家は741戸減少した。減少率は68.5%で、これはほぼ全県と同様の推移である。兼業農家では第一種の減少率は68.2%、第二種は増加率185.0%となっている。兼業全体では81戸増加、増加率7.2%である。以上の結果、当初の1960年には専業49.2%、第一種兼業35.7%、第二種兼業15.1%であったものが、1985年にはそれぞれ22.1%、16.2%、61.7%となっ

第4表 農家専業兼業別推移、及び兼業の内恒常的勤務の割合

	農家数	専業農家		兼業農家		第1種兼業		第2種兼業		兼業のうち第1種兼業農家中の比率		恒常的勤務第2種兼業農家中の比率		
		戸数	構成比	戸数	構成比	戸数	構成比	戸数	構成比	農家数	比率	農家数	比率	
加茂川町	1960年	2,199	49.2%	1,118	50.8%	785	35.7%	333	15.1%	—	—	—	—	
	65	2,039	33.4	1,357	66.6	868	42.6	489	24.0	262	19.3	239	17.6	
	70	1,896	22.3	1,474	77.7	704	37.1	770	40.6	209	14.2	366	24.8	
	75	1,713	255	14.9	1,458	85.1	476	27.8	982	57.3	162	11.1	533	36.6
	80	1,593	292	18.3	1,031	81.7	364	22.8	937	58.8	181	17.6	604	58.6
	85	1,539	340	22.1	1,199	77.9	250	16.2	949	61.7	139	11.6	698	58.2
	この間の増減	-660 (-30.0)	-741 (-68.5)	---	+81 (+7.2)	---	-535 (-68.2)	---	+64 (+185.0)	---	---	---	---	---
賀陽町	1960年	2,278	59.2	930	40.8	620	27.2	310	13.6	—	—	—	—	
	65	2,136	937	43.9	1,199	56.1	786	36.8	413	19.3	322	26.9	215	17.9
	70	2,068	432	20.9	1,636	79.1	1,095	52.9	541	26.2	364	22.2	289	17.7
	75	1,939	230	11.9	1,709	88.1	762	39.3	947	48.8	253	14.8	557	32.6
	80	1,912	220	11.5	1,692	88.4	533	27.8	1,159	60.6	209	12.4	738	43.6
	85	1,824	314	17.2	1,510	82.8	354	19.4	1,156	63.4	219	14.5	913	60.5
	この間の増減	-454 (-19.9)	-1,034 (-76.7)	---	+580 (+62.4)	---	-266 (-42.0)	---	+848 (+272.9)	---	---	---	---	---
岡山県	1960年	172,533	61,730	35.8	110,803	64.2	59,851	34.7	50,952	29.5	28,064	16.3	29,029	16.8
	65	161,737	32,071	19.8	129,666	80.1	60,229	37.2	69,437	42.9	27,227	16.8	42,841	26.5
	70	154,081	19,448	12.6	134,633	87.4	46,260	30.0	88,373	57.4	20,328	13.2	53,956	35.0
	75	142,400	13,107	9.2	129,293	90.7	24,419	17.1	104,784	73.6	11,336	8.6	90,207	63.3
	80	134,799	15,073	11.2	119,726	88.8	17,540	13.0	102,186	75.8	10,075	7.5	76,295	55.6
	85	127,896	16,928	13.2	110,968	86.8	12,596	9.8	98,372	76.9	8,283	6.5	86,570	67.7
	この間の増減	-44,637 (-25.9)	-44,802 (-72.6)	---	+165 (+0.15)	---	-47,255 (+79.0)	---	+47,420 (+93.1)	---	---	---	---	---

註1) 第3表と同一書より作成。
 2) この間の増減欄の()内は増減率。
 3) 恒常的勤務の1960年は、事務職員、賃労働者、役員の合計である。

た。

賀陽町 農家数の推移をみると、1960年から1985年の間に454戸、率にして19.9%の減少である。

この間に専業農家は1034戸、率にして76.7%の減少があった。兼業農家では第一種の減少率は42.0%、第二種は増加率272.9%となっている。兼業全体では580戸増加し、増加率62.4%である。

以上の結果、当初の1960年には専業59.2%、第一種兼業27.2%、第二種兼業13.6%であったものが、1985年にはそれぞれ17.2%、19.4%、63.4%となった。

賀陽町の方がより専業的であったが、この間の兼業化の進展はより著しい。加茂川町はこの兼業化はやや小さい。しかし当初より兼業のウェイトがより大きいこの加茂川町は同時に農家数そのものの減少はよりはげしく、ここでは、兼業農家の脱農化がより著しく進展したものとえよう。

なおこの家としての兼業の内容であるが、ともに共通に恒常的雇用勤務が多く、安定的兼業といえよう。

(2) 労働力保有状態別農家数

第5表は労働力保有状態別農家数を示す。

加茂川町 1970年には専従者なしは451戸、全農家数中の28.5%であり、55.9%の1059戸の農家に男子専従者がいた。農家数の減少するなかでこの専従者なしの農家は増加し、85年にはそれは821戸となり、全体の53.3%を占めるに至った。この間男子専従者がいる農家は509戸に減少し、33.1%を占めるに過ぎなくなった。男子専従者がいるといっても、60才未満の専従者がいるというのは213戸で、男子専従者のいる農家の4割程度、全農家のわずか13.8%に過ぎない。それは75年には386戸あったが、急速に減少しているといつてよい。他方、専従者なしは85年には821戸となり、全体の53.3%を占めるに至った。そのうちの432戸、全体の28.1%は補助者もないというもののである。また、専従者は女だけでしかも補助者はいるものの女だけという

第5表 農業労働力保有状態別農家数

		農家数	専従者なし		専従者は女だけ		男子専従者がいる			
			計	内 補助者 もいない	計	内 男の補 者がいない	計	60才未満の専 従者がいる	男子専従者 1人	男子専従者 2人以上
加 茂 川 町	1970年	1,896戸	451戸 23.5%	—戸 —%	356戸 18.8%	—戸 —%	1,059戸 55.9%	—戸 —%	875戸 46.2%	184戸 9.7%
	75	1,713	665 38.8	—	403 23.5	191 11.2	645 37.7	386 22.5	572 33.4	73 4.3
	80	1,593	750 47.1	324 20.3	257 15.1	115 7.2	586 36.8	309 19.4	531 33.3	55 3.5
	85	1,539	821 53.3	432 28.1	209 13.6	110 7.1	509 33.1	213 13.8	474 30.8	35 2.3
	この間 の増減	-257 (-13.6)	-280 (+62.1)	---	+147 (+41.3)	---	-550 (-51.9)	-171 (-44.8)	-401 (-45.8)	-149 (-81.0)
賀 陽 町	1970年	2,068	426 20.6	—	335 16.2	—	1,307 63.2	—	1,042 50.4	265 12.8
	75	1,939	746 38.5	—	384 19.8	170 8.8	809 41.7	545 28.1	725 37.4	84 4.3
	80	1,912	950 49.7	474 24.8	312 16.3	130 8.1	650 34.0	367 19.2	594 25.6	56 2.9
	85	1,824	917 50.3	462 25.3	239 13.1	123 6.7	668 36.8	324 19.8	608 33.3	60 3.3
	この間 の増減	-244 (-11.8)	-491 (+115.3)	---	-96 (-28.7)	-47 (-27.6)	-639 (-48.9)	-221 (-40.6)	-434 (-41.7)	-205 (-77.4)
岡 山 県	1970年	154,081	76,359 49.6	—	22,726 14.7	—	54,996 35.7	—	47,262 30.7	7,734 5.0
	75	142,400	95,338 67.0	—	15,945 11.2	8,019 5.6	31,117 21.9	17,585 12.3	28,166 19.8	2,951 2.1
	80	134,799	97,635 72.4	56,687 42.1	11,232 8.3	5,912 4.4	25,932 19.2	13,900 10.3	23,619 17.5	2,313 1.7
	85	127,896	93,920 73.4	56,064 43.8	9,423 7.4	5,382 4.2	24,553 19.2	11,104 8.7	22,566 17.6	1,987 1.6
	この間 の増減	-26,185 (-17.0)	+17,561 (+23.0)	---	-13,303 (-58.5)	-2,637 (-32.9)	-30,443 (-55.4)	-1,481 (-36.9)	-24,696 (-52.3)	-5,747 (-74.3)

註1) 第3表と同一書のうち当該年分より作成。

2) パーセント欄は農家数中の増減比。

3) この間の増減欄の()内は増減率。

のが106戸で、6.9%である。このように、専従者のない農家の増加とそのウェイトの大きいこと、男子専従者のいる農家の急速な減少とそのウェイトの低下、そのあるというものの60才以上というものの増加、このような状況が進行しているのである。

賀陽町 1970年には専従者なしは426戸、全体の20.6%であり、63.2%の1307戸の農家に男子専従者がいた。農家数の減少するなかでこの専従者なしの農家は増加し、85年にはそれは917戸となり、全体の50.3%を占めるに至った。この間男子専従者がいる農家は668戸に減少し、全体の36.8%を占めるに過ぎなくなった。専従者がいるといっても、60才未満の専従者がいるというのは324戸で、男子専従者のいる農家の半分に満たず、全農家のわずか19.8%に過ぎない。それは75年には545戸あったが、急速に減少しているといってよい。他方、専従者なしは85年には917戸となったが、そのうちの462戸、全体の25.3%は補助者もないというものである。また、専従者は女だけでしかも補助者はいるものの女だけというのが123戸で、6.7%である。このように、ここでも専従者のない農家の増加とそのウェイトの大きいこと、男子専従者のいる農家の急速な減少とそのウェイトの低下、そのあるというものの60才以上というものの増加、このような状況が進行しているのである。しかし、以上のことの進行は加茂川町よりもやや小さい。

なお、この両町の以上の状況は全県と比較すると、全県の動きはより顕著である。専従者なしは全体の73.4%に達し、しかもそのうちの補助者もないとすうものが実に43.8%も占めるに至っている。他方、男子専従者がいるものは19.2%、そのうち60才以上がいるのは8.7%に過ぎず、その小ささは、この両町よりも遥かに著しい。このような全県の状況と比較するとき、この吉備高原上の両町はなお専従者をもっているといえる。それは、通勤圏にあるとはいえなお農外通勤の機会に制約のあることに主としてよっているといえよう。

(3) 農業従事者の推移

この間の農業従事者の推移は第6表に示すがごとくである。

加茂川町 この間、16才以上の総人数は7219人から4605人へと2614人、率にして36.2%の減少があった。

この世帯員のうち、自家農業に従事する自家農業従事者は820人、率にして17.5%の減少、自家農業だけ・主として自家農業に従事する自家農業就業者は1908人、率にして57.9%の減少、そしてそのうち仕事の主である基幹的農業従事者は2920人、率にして67.5%の減少があった。それぞれにおいて男は女を上回る。農業従事者の著しい減少をみることができる。他方、世帯員であって、その他の仕事の主・その他の仕事のみに従事という者は1117人、率にして97.2%の増加があった。それは1960年には全体の10.8%に過ぎなかったものが1985年には41.2%になっている。

また、60才以上はこの間に1440人から1799人へと399人増加し、当初は16才以上の総人数の20.0%であったものが、85年には39.1%となった。

賀陽町 この間、16才以上の総人数は7911人から5941人へと1970人、率にして24.9%の減少があった。

この世帯員のうち、自家農業に従事する自家農業従事者は120人、率にして2.5%の減少、自家農業だけ・主として自家農業に従事する自家農業就業者は1884人、率にして43.2%の減少、そしてそのうち仕事の主である基幹的農業従事者は3376人、率にして66.3%の減少があった。それぞれにおいて男は女を上回る。農業従事者の著しい減少をみることができる。他方、世帯員であって、その他の仕事の主・その他の仕事のみに従事という者は1858人、率にして242.2%の増加があった。1960年には全体の9.7%に過ぎなかったものが1985年には44.2%になっている。

また、60才以上はこの間に1571人から2074人へと503人増加し、当初は16才以上の総人数の19.9%であったものが、85年には34.9%となった。

この両町はともに農業従事する者が減少し、農外の仕事に従事する者が増

第6表 農業従事者数

		自家農業 従事者	農業就業 人口	基幹的農 業従事者	その他の仕 事が主、そ の他のみに 従事した者	16才以上 従事者	内60才以 上人員
加 茂 川 町	1960年	4,678 (2,531)	4,058 (2,014)	4,325 (2,489)	781 (621)	7,219 (3,502)	1,440 (707)
	65	4,089 (2,107)	—	4,186 (1,896)	—	5,945 (3,063)	—
	70	5,237 (2,385)	3,835 (1,421)	2,926 (1,396)	1,541 (1,019)	5,839 (2,752)	1,586 (764)
	75	4,384 (2,190)	2,608 (1,004)	1,848 (806)	1,918 (1,282)	5,227 (2,527)	1,595 (785)
	80	4,125 (2,098)	2,343 (931)	1,578 (754)	2,059 (1,255)	4,892 (2,403)	1,632 (761)
	85	3,864 (1,964)	2,156 (847)	1,405 (660)	1,895 (1,226)	4,605 (2,265)	1,799 (823)
	この間 の増減	-820 (-56.6) -17.5 % (-22.4)	-1,908 (-1,167) -47.0 % (57.9)	-2,920 (-1,829) -67.5 % (-73.5)	+1,117 (+605) +143.0 % (+97.4)	-2,614 (-1,237) -36.2 % (-35.3)	+399 (+116) +23.5 % (+16.4)
	賀 陽 町	1960年	4,874 (2,530)	4,366 (2,156)	5,093 (2,637)	767 (585)	7,911 (3,821)
65		5,056 (2,272)	—	4,373 (2,163)	—	7,123 (3,415)	—
70		5,915 (2,841)	4,671 (1,982)	2,090 (996)	2,079 (1,592)	6,783 (3,216)	1,765 (852)
75		5,310 (2,588)	3,162 (1,186)	2,225 (957)	2,307 (1,484)	6,245 (2,964)	1,820 (829)
80		5,144 (2,578)	2,823 (1,053)	1,874 (839)	2,588 (1,667)	6,188 (2,959)	1,931 (845)
85		4,754 (2,440)	2,482 (993)	1,717 (817)	2,625 (1,622)	5,941 (2,552)	2,074 (920)
この間 の増減		-120 (-90) -2.5 % (-3.6)	-1,884 (-1,163) -43.2 % (-53.9)	-3,376 (-1,820) -66.3 % (-69.0)	1,858 (1,037) +242.2 % (+177.3)	-1,970 (-969) -24.9 % (-25.4)	+503 (+133) +32.0 % (+16.9)

註1) 第3表と同一書より作成。

2) ()内はうち男。

3) この間の増減欄の上段は実数、下段は増減率。()内はうち男。

加し、また老齢化していることにおいて共通である。ただ、この両者において、加茂川町においては農業外への流出はより著しいといえる。賀陽町は農業外に従業しながら世帯員でありつづける者が多いのであり、このことによって第二種兼業としてとどまり得ているのである⁽³⁾。

(3) 経営耕地規模別農家構成の推移

第7表は経営耕地規模別農家構成を示す。

加茂川町 1960年では0.7~1.0haが27.6%で最大であったが、これは75年には20.5%となっていて縮小し、0.5~1.0haは75年の45.3% (0.5~0.7ha 17.7%, 0.7~1.0ha 27.6%) から85年には38.8%へと減少しており、この0.7~1.0haを中心とした0.5~0.7ha, 1.0~1.5ha層が縮小している。他方、0.3ha未満が11.1%から20.9%に、0.3~0.5haが17.2%から20.3%に増加、肥大し、2.0ha以上が、2.0~2.5ha 5戸・0.23%, 2.5~3.0ha 1戸・0.05%であったものが、22戸1.4%, 5戸0.32%, そして、3.0ha~5.0ha 7戸0.45%, 5.0ha以上 3戸0.19%となった。

賀陽町 1960年には1.0~1.5ha 33.1%で最大で、ついで0.7~1.0haが24.8%であり、中規模層の厚いところであった。そして、0.3ha未満8.5%, 0.3~0.5ha 10.0%と小さく、2.0~2.5ha 22戸・0.97%, 2.5~3.0ha 2戸・0.08%, 3.0ha以上 1戸・0.04%で大規模層が相対的に大きかった。それが1985年には、最多層であった1.0~1.5haは25.2%へと縮小し、0.3ha未満、あるいは0.3~0.5ha層が増加している。しかし、1.0~1.5haのウェイトはなお大きく、小規模層のウェイトは相対的に小さい。そして、2ha 53戸・2.9%, 2.5ha 17戸・2.9%, 3.0ha 25戸・1.4%, そして、5.0ha以上 15戸0.82%というように大規模層の数も多く、ウェイトも大きくなっている。

(3) 以上にみた、農家の兼業化の進展、専業者保有農家の減少、自家農業専従者の減少は、高度経済成長期にいずれにおいてもみられたことであるが、この場合は、県南の工業開発、ことに水島臨海工業地帯と深くかかわっており、その影響によるところが大きい。

第7表 経営耕地規模別農家構成の推移

		例外規定	0.3ha 未満	0.3~ 0.5	0.5~ 0.7	0.7~ 1.0	1.0~ 1.5	1.5~ 2.0	2.0~ 2.5	2.5~ 3.0	3.0~ 5.0	5.0ha 以上	合 計
加 茂 川 町	1960年	0 (0)	244 (11.1)	379 (17.2)	389 (17.7)	608 (27.6)	506 (23.0)	67 (3.0)	5 (0.23)	1 (0.05)	0 (0)		2,199
	65	2 (0.10)	251 (12.3)	317 (15.5)	344 (16.9)	528 (25.9)	523 (25.6)	72 (3.5)	2 (0.10)	0 (0)	0 (0)		2,039
	70	4 (0.21)	237 (12.5)	263 (13.9)	318 (16.8)	485 (25.6)	474 (25.0)	93 (4.9)	13 (0.68)	4 (0.21)	5 (0.26)	0 (0)	1,896
	75	6 (0.35)	250 (14.6)	339 (19.8)	361 (21.1)	352 (20.5)	298 (17.4)	73 (4.3)	14 (0.82)	5 (0.29)	7 (0.41)	8 (0.47)	1,713
	80	6 (0.38)	246 (15.4)	317 (19.9)	702 (44.1)		242 (15.2)	64 (4.0)	9 (0.56)	2 (0.13)	4 (0.25)	1 (0.06)	1,593
	85	4 (0)	321 (20.9)	313 (20.3)	597 (38.8)		189 (12.3)	68 (4.4)	22 (1.4)	5 (0.32)	7 (0.45)	3 (0.19)	1,539
賀 陽 町	1960年	0 (0)	194 (8.5)	228 (10.0)	293 (12.9)	565 (24.8)	755 (33.1)	218 (9.6)	22 (0.97)	2 (0.08)	1 (0.04)		2,278
	65	0 (0)	177 (8.3)	202 (9.5)	248 (11.6)	436 (20.4)	711 (33.3)	299 (14.0)	51 (2.4)	5 (2.4)	7 (0.33)		2,136
	70	1 (0.05)	182 (8.8)	182 (8.8)	217 (10.5)	361 (17.5)	669 (32.4)	363 (17.6)	63 (3.0)	21 (3.0)	9 (0.43)	0 (0)	2,068
	75	1 (0.05)	192 (9.3)	227 (11.0)	235 (11.4)	391 (27.0)	561 (27.1)	242 (11.7)	51 (2.5)	18 (2.5)	18 (0.87)	3 (0.15)	1,939
	80	5 (0.26)	188 (9.8)	219 (11.5)	693 (36.3)		516 (27.0)	200 (10.5)	51 (2.7)	17 (2.7)	16 (0.84)	5 (0.26)	1,912
	85	2 (0.11)	227 (12.2)	236 (12.9)	620 (34.0)		459 (25.2)	170 (9.3)	53 (2.9)	17 (2.9)	25 (1.4)	15 (0.82)	1,824

註1) 第3表と同一書より作成.

2) () 内は構成比%.

両町ともに中軸的な経営規模農家層（加茂川町は0.7～1.0ha，賀陽町は1.0～1.5ha）の多くが小規模層に落層し，それによって零細層農家の離脱にもかかわらず零細規模層はウェイトが高まっている。とはいえ，賀陽町は最多層であった1.0～1.5haは減少するものの85年もそのウェイトはかなり大きく，零細層のウェイトは相対的には小さく，他方では一部大規模層も現れている。

5 土地利用の変化

(1) 経営耕地面積の推移

第8表に経営耕地面積の推移をみる。

加茂川町 経営耕地面積はこの間に35.2%の減少があったが，それは普通畑の50.0%という著しい減少によるところが大きい。1960年には畑には焼畑・切替畑を含むものとされており，その消滅も含まれるであろう。しかし，水田もこの間に371ha，率にして34.0%という減少があり，経営耕地の減少は著しい。

賀陽町 この間に田227ha，畑96ha，樹園地とも合計333haの減少がみられた。減少率はそれぞれ14.5%，18.1%，15.7%である。

この両町はともに経営耕地は大きく減少しているが，ことに加茂川町のそれは極めて著しいといわざるをえない。

(2) 耕地貸借，作業請負

兼業化，しかも第二種兼業化，高齢化が進むなか，先程の階層構成の変化ともかかわって，農地の流動化の進展をみよう。まず耕地の貸借をみる。第9表耕地貸借を示す。

加茂川町 1970年に借入耕地のある農家671戸，その面積110haである。以後，借入耕地のある農家数はかなり大きく減少するが，85年には364戸，その耕地面積は99haである。うち田は農家266戸，面積62ha，畑158戸，面積

第8表 経営耕地の推移

		経 営 耕 地 面 積			
		合 計	田	普 通 畑	樹 園 地
加 茂 川 町	1960年	1,615 ha	1,090 ha	540 ha	24 ha
	65	1,552	1,040	484	27
	70	1,523	1,022	469	32
	75	1,283	830	406	47
	80	1,144	798	295	51
	85	1,046	719	270	57
	この間の 増 減	-570	-371	-270	+33
		-35.2%	-34.0%	-50.0%	+137.5%
賀 陽 町	1960年	2,124	1,561	529	34
	65	2,150	1,573	551	34
	70	2,201	1,648	517	36
	75	1,936	1,439	471	26
	80	1,901	1,406	467	28
	85	1,791	1,334	433	24
	この間の 増 減	-333	-227	- 96	-10
		-15.7%	-14.5%	-18.1%	-29.4%

註1) 第3表と同一書より作成。
2) この間の増減欄の下段は増減率。

35haである。このほか、期間借地が82戸、17haある。借入耕地のある農家の総農家数に対する割合は23.7%、耕地面積中の借入耕地面積の割合は9.5%に達する。経営耕地の1割近くが借入耕地であるということになる。そして借入農家1戸あたりの借入耕地面積は27.1aである。借入農家にとってはかなりの大きさである。

賀陽町 1970年に借入耕地のある農家710戸、その面積137haである。以後、借入耕地のある農家数はかなり大きく減少するが、85年には420戸、その耕地面積は142haである。うち田は農家252戸、面積71ha、畑252戸、面積

第9表 借入耕地のある農家数及びその面積

		借入耕地のある農家数と面積						期間借地		
		合計			田		畑			
		実農家数	面積	1戸あたり平均	実農家数	面積	実農家数	面積	実農家数	面積
加茂川町	1970年	671戸35.4%	110ha7.2%	0.163ha	— 戸 — %	— ha — %	— 戸 — %	— ha — %	— 戸 — %	— ha — %
	75	460 26.9	90 7.0	0.195	— —	57 6.9	— —	— —	— —	— —
	80	402 25.2	93 8.1	0.231	277 18.2	58 7.3	189 —	33 11.2	121 7.6	35 3.0
	85	364 23.7	99 9.5	0.271	266 18.5	62 8.6	158 —	35 13.0	82 5.3	17 1.6
賀陽町	1970年	710 34.3	137 6.2	0.192	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	75	471 24.3	114 5.9	0.242	— —	60 4.2	— —	— —	— —	— —
	80	468 24.5	151 7.9	0.322	288 16.5	81 5.8	273 —	69 14.8	48 2.5	9 0.47
	85	420 23.0	142 7.9	0.338	252 14.2	71 5.3	252 —	69 15.9	60 3.3	15 0.84
岡山県	1970年	42,395 27.5	6,888 6.7	0.162	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	75	28,787 20.2	5,180 5.9	0.179	— —	3,713 5.5	— —	— —	— —	— —
	80	22,467 16.7	5,377 6.5	0.239	16,926 13.5	3,803 6.0	7,647 —	1,384 10.0	5,555 4.1	1,379 1.7
	85	22,634 17.7	6,082 7.9	0.268	17,411 14.7	4,318 7.1	7,517 —	1,591 12.5	3,637 2.8	1,103 1.4

註1) 第3表と同一書より作成。

2) パーセント欄は全農家数に対する比率，全耕地，当該全耕地に対する比率。

69haである。このほか、期間借地が60戸、15haある。借入耕地のある農家の総農家数に対する割合は23.0%、耕地面積中の借入耕地面積の割合は7.9%に達する。経営耕地の1割近くが借入耕地であるということになる。そして借入農家1戸あたりの借入耕地面積は33.8aである。それは加茂川町よりいっそう大きい。

つぎに作業請負をみよう。第10表は水稻作業を請負に出した農家を示す。

加茂川町 農作業を請負させた水稻作農家数は219戸で、これは水稻作農家の15.7%にあたる。耕起から稲刈・脱穀までのすべてを請負させた農家数は31戸、育苗から稲刈・脱穀までのすべてを請負させた農家数は25戸で、それぞれ水稻作農家の2.2%、1.8%にあたる。こころみに水稻作の作業ごとの面積の延面積は156haで、これは水稻収穫面積の25.8%にあたる。

賀陽町 農作業を請負させた水稻作農家数は271戸で、これは水稻作農家の15.9%にあたる。耕起から稲刈・脱穀までのすべてを請負させた農家数は56戸、育苗から稲刈・脱穀までのすべてを請負させた農家数は52戸で、それぞれ水稻作農家の3.3%、3.0%にあたる。こころみに水稻作の作業ごとの面積の延面積は231haで、これは水稻収穫面積の22.1%にあたる。

このように、両町ともに請負に出す農家があるが、しかし、農作業を請負させた水稻作農家の対水稻作農家割合21.1%、耕起から稲刈・脱穀までのすべてを請負った農家、育苗から稲刈・脱穀までのすべてを請負った農家の対水稻作農家の3.2%、2.8%、水稻作の作業ごとの面積の延面積の対水稻収穫面積の32.2%、という全県と比べると、賀陽町においてすべての作業を請負させた農家のウェイトがやや大きいなど、一定の展開がみられる。なお、1970年にかなりあった請負いに出す農家その後減少し、ウェイトを低めているが、80年から85年の間には増加している。

つぎに水稻作業を請負った農家をみよう。第11表はそれを示す。

加茂川町 水稻作の農作業を請負った農家数は37戸で、これは水稻作農家の2.5%にあたる。水稻作の全作業を請負った農家数は3戸で、水稻作農家

第10表 水稲作を請負わせた農家数

		請負わせた水稲作実農家数		請負わせた水稲作業面積の延面積		耕地から稲刈・脱穀までのすべてを請負わせた		育苗から稲刈・脱穀までのすべてを請負わせた	
		実農家数	その対水稲作農家割合	延面積	その対水稲作面積比率	農家数	その対水稲作農家比率	農家数	その対水稲作農家比率
加 茂 川 町	1970年	540 戸	29.5 %	330 戸	35.2 %	— 戸	— %	— 戸	— %
	75	199	12.3	125	19.3	—	—	—	—
	80	155	10.4	106	16.4	16	1.1	14	0.93
	85	219	15.7	156	25.8	31	2.2	25	1.8
賀 陽 町	1970年	565	27.7	482	33.2	—	—	—	—
	75	320	17.0	326	26.1	—	—	—	—
	80	187	10.4	181	16.3	29	1.6	28	1.6
	85	271	15.9	231	22.1	56	3.3	52	3.0
岡 山 県	1970年	52,680	34.2	31,077	42.1	—	—	—	—
	75	27,217	21.2	16,837	28.3	—	—	—	—
	80	22,061	18.3	14,897	28.8	2,850	2.4	2,425	2.0
	85	23,753	21.1	15,775	32.2	3,557	3.2	3,186	2.8

註1) 第3表と同一書より作成。

第11表 農作業を請負った農家数

		請負った農家数			水稲作全面請負			耕起			田植			稲刈・脱穀		
		実農家数	水稲作	水稲作以外	農家数	面積	1戸あたり	農家数	面積	1戸あたり	農家数	面積	1戸あたり	農家数	面積	1戸あたり
加茂川町	1975年	51 3.0	51 3.2	6	—	— ^{ha}	— ^{ha}	37 2.3	16 ^{ha} 2.1	0.432 ^{ha}	20 1.2	10 1.3	0.500 ^{ha}	11 0.68	4 ^{ha} 0.53	0.363 ^{ha}
	80	39 2.4	37 2.5	4	6 0.40	3 0.20	0.500	21 1.4	10 0.67	0.476	20 1.3	12 0.80	0.600	19 1.3	12 0.80	0.631
	85	38 2.5	38 2.7	6	3 0.22	1 0.17	0.333	16 1.1	9 1.5	0.562	17 1.2	12 2.0	0.705	23 1.7	14 0.16	0.608
賀陽町	1975年	57 2.9	57 3.0	0	—	—	—	27 1.4	13 1.0	0.481	22 1.7	17 1.4	0.772	18 0.96	15 1.2	0.833
	80	51 2.7	51 2.8	0	22 1.2	8 0.44	0.363	20 1.1	11 0.61	0.550	8 0.44	5 0.28	0.625	26 1.4	13 0.72	0.500
	85	48 2.6	47 2.8	2	9 0.53	1 0.10	0.111	17 1.0	8 0.76	0.470	20 1.2	10 1.0	0.500	31 1.8	20 1.9	0.645
岡山県	1975年	4,633 3.2	4,585 3.6	143	—	—	—	3,469 2.7	2,037 3.4	0.587	1,260 0.98	658 1.1	0.522	2,535 2.0	1,702 2.9	0.671
	80	3,360 2.5	3,311 2.8	139	1,122 0.93	567 1.1	0.349	1,829 9.0	1,023 2.0	0.559	1,071 5.3	575 1.1	0.536	2,052 4.0	1,639 3.1	0.793
	85	3,841 3.0	3,784 3.4	183	832 0.74	496 1.0	0.596	1,799 1.6	983 2.0	0.546	1,244 1.1	732 1.5	0.588	2,372 2.1	1,991 4.1	0.839

註1) 第3表と同一書のうち当該年分より作成。

2) 下段は比率(%)。実戸数の比率は農家戸数中の比率，そのほかは水稲作における比率，面積棟の比率は水稲作面積中の比率。

の0.22％，その面積は0.17％にとどまる。主要作業についてその面積の対水稲作面積比率をみると，耕起1.5％，田植2.0％，稲刈・脱穀0.16％である。こころみに水稲作の作業ごとの面積の延面積は35haで，これは水稲作面積の5.8％にあたる。

賀陽町 水稲作の農作業を請負った農家数は47戸で，これは水稲作農家の2.8％にあたる。水稲作の全作業を請負った農家数は9戸で，水稲作農家の0.53％にあたる。主要作業についてその面積の対水稲作面積比率をみると，耕起0.76％，田植1.0％，稲刈・脱穀1.9％である。こころみに水稲作の作業ごとの面積の延面積は38haで，これは水稲作面積の3.5％にあたる。

このように，両町ともに請負った農家があるが，しかし，全県が，農作業を請負った水稲作農家の対水稲作農家割合3.4％，水稲作の全作業を請負った農家の対水稲作農家比率0.74％，その面積1.0％，水稲作の作業ごとの面積の延面積の対水稲收穫面積比率32.2％，主要作業の面積の対水稲作面積比率，耕起2.0％，田植1.5％，稲刈・脱穀4.1％，水稲作の作業ごとの面積の延面積の対水稲作面積比率7.3％，であるということと比べると，両町とも作業を請負った農家のウェイトは小さく，請負耕作というかたちでの農地利用の度合は小さい。

(3) 耕地利用状況

前節で経営耕地の状況をみたが，ここで，さらに土地利用状況の推移をみよう。

「センサス」には，田における水稲作付状況，畑の作付状況がある。第12表はそれを示す。それによって検討していく。

加茂川町 この間に稲作面積は1081haから608haへと473ha減少した。減少率は43.8％に及ぶ。この間に田面積も減少しているが，それは34.0％であり，これを上回る。田面積中の稲作面積は，99.2％であったものが，84.6％となった。他方，この間に稲以外の作物だけを作った田は1960年は3haであったものが，漸次増加した後75年の8haから80年には63haへと一挙に大き

第12表 耕地の作付状況

		田								畑		
		田面積	稲を作った田			稲以外を作った田		作付しなかった田		畑面積	作付しなかった畑	
			農家数	稲作田面積	その他田面積比率	面積	その他田面積比率	面積	その他田面積比率		面積	その他田面積比率
加茂川町	1960年	1,090ha	— 戸	1,081ha	99.2 %	3ha	0.28 %	2ha	0.18 %	540ha	— ha	— %
	65	1,040	—	1,027	98.8	6	0.58	5	0.48	484	26	5.4
	70	1,022	—	1,001	97.9	7	0.68	8	0.78	469	29	6.2
	75	830	—	780	94.0	8	0.96	43	5.1	406	47	11.6
	80	798	1,493	685	85.8	63	7.9	50	6.3	295	24	8.1
	85	719	1,392	608	84.6	68	9.5	43	6.0	224	14	6.3
	この間の増減	-371	---	-473	---	+65	---	+41	---	-316	-12	---
	-34.0 %	---	-43.8 %	---	+2,166.7 %	---	+2,500.0 %	---	-58.5 %	-46.2 %	---	
賀陽町	1960年	1,561	—	1,557	99.7	3	0.19	1	0.03	529	—	---
	65	1,573	—	1,553	98.7	16	1.0	3	0.19	551	34	6.2
	70	1,646	—	1,619	98.4	23	1.4	6	0.36	517	21	4.1
	75	1,439	—	1,347	93.6	32	2.2	60	4.2	471	47	10.0
	80	1,406	1,801	1,199	85.3	115	8.2	91	6.5	467	25	5.4
	85	1,334	1,706	1,090	81.7	191	14.3	53	4.0	433	25	5.0
	この間の増減	-227	---	-467	---	+188	---	+52	---	-96	-9	---
	-14.5 %	---	-30.0 %	---	+6,266.7 %	---	5,200.0 %	---	-18.1 %	-26.5 %	---	
岡山県	1960年	82,533	—	81,610	98.9	338	0.41	212	0.26	24,264	—	---
	65	80,269	—	80,051	99.7	713	0.89	400	0.50	21,242	1,835	8.6
	70	77,369	—	75,921	98.1	761	0.98	580	0.75	19,735	2,735	13.9
	75	67,092	—	62,178	92.7	1,914	2.9	3,000	4.5	11,991	2,879	24.0
	80	63,551	120,441	54,333	85.5	5,311	8.4	3,906	6.1	13,881	1,901	13.7
	85	60,521	112,477	50,467	83.4	7,058	11.7	2,995	4.9	12,734	1,440	11.3
	この間の増減	-22,012	---	-31,141	---	+6,720	---	+2,783	---	-11,530	-385	---
	-26.7 %	---	-38.2 %	---	+1,988.2 %	---	+1,312.7 %	---	-47.5 %	-21.0 %	---	

註1) 第3表と同一書より作成。
 2) この間の増減欄はの下段は増減率。

くなり、85年には68haとなった。田面積の9.5%である。この間に、同時に、1年間なにも作付けなかった田も増加した。1960年には2haであったものが、70年の8haから75年には43haへと一挙に増加した。1985年にはそれがもっとも大きくなり、対水田面積比率は6.3%に及んだ。

1960年から85年の間に畑面積も著しく減少した。すなわち、540haから224haへと316ha、率にして58.5%の減少である。この畑のうち作付けしない畑は65年には26ha、畑面積の5.4%であった。これは75年には47haとなり、畑面積の11.6%となった。以後、減少するものの、85年でも6.3%を占めている。この作付けしない畑は、やがて耕作放棄地となっていくものと思われる。

賀陽町 この間に稲作面積は1557haから1090haへと467ha減少した。減少率は30.0%に及ぶ。この間に田面積も減少しているが、それは14.5%であり、これを上回る。田面積中の稲作面積は、99.7%であったものが、81.7%となった。他方、この間に稲以外の作物だけを作った田は1960年は3haであったものが、漸次増加した後75年の32haから80年には115haと一挙に大きくなり、85年には191haとなった。田面積の14.3%である。この間に、同時に、1年間なにも作付けなかった田も増加した。1960年には0.5haであったものが、70年の6haから75年には60haへと一挙に増加した。80年が最大で91haとなり、田面積の6.5%となっている。

1960年から85年の間に畑面積も著しく減少した。すなわち、529haから433haへと96ha、率にして18.1%の減少である。この畑のうち作付けしない畑は65年には34ha、畑面積の6.2%であった。これは75年には47haとなり、畑面積の10.0%となった。以後、減少するものの、85年でも5.0%を占めている。この作付けしない畑は、やがて耕作放棄地となっていくものと思われる。

以上、二つの町についてみた。全県は、田面積の減少率26.7%、稲以外の作付した田11.7%、作付しなかった田4.9%、畑面積減少率47.5%、作付なし

11.3%である。これと比較すると、加茂川町は畑作付なしを除いて他はいずれも全県より大きく、賀陽町はいずれも小さい。加茂川町においては田畑利用の後退が著しい。

(4) 耕作放棄地

第13表は耕作放棄地を示す。

第13表 耕作放棄地、採草地放牧地

	耕作放棄地						耕地以外の 採草地・放牧地
	合計		田		畑		
	農家数	面積	農家数	面積	面積	面積	
	1960年	ha %	ha %	ha %	ha %	ha %	672 ha
加茂川町	65	—	31 2.0	—	5 0.48	26 5.4	506
	70	—	28 1.8	—	8 0.78	20 4.3	292
	75	703 41.0	120 9.4	—	—	—	83
	80	505 31.7	82 7.2	324 20.3	44 5.5	38 12.9	32
	85	445 26.3	67 6.4	—	—	—	36
	賀陽町	1960年	—	—	—	—	—
65		—	27 1.2	—	3 0.19	24 4.4	454
70		—	44 2.0	—	6 0.36	38 7.4	113
75		373 19.2	52 2.7	—	—	—	28
80		392 20.5	47 2.5	210 11.4	25 1.8	22 4.7	25
85		276 15.1	31 1.7	—	—	—	21
岡山県	1960年	—	—	—	—	—	24,391
	65	—	2,235 2.1	—	400 0.50	1,835 8.6	14,516
	70	—	3,315 3.2	—	580 0.75	2,735 13.9	7,005
	75	24,536 17.2	3,970 4.5	—	—	—	2,848
	80	23,521 17.4	3,927 4.8	11,163 8.9	1,397 2.2	2,530 18.2	1,446
	85	20,965 16.4	3,590 4.6	—	—	—	1,739

註1) 第3表と同一書より作成。

2) 農家数の比率は総戸数、水田耕作農家における比率、面積の比率は耕地面積、田、畑面積に対する比率。

加茂川町 1965年に耕作放棄地は31haであった。これは以後増加し、75年には120haとなり、対耕地面積比率9.4%となった。耕作放棄のあった農家数は703戸で、全農家戸数の41.0%に及ぶ。すなわち、全農家の4割の農家が、1戸平均17aほどを耕作放棄し、約1割の耕地が耕作放棄地となった。65年にはそれは田5ha、畑26haであったが、75年にそれが田畑ともに大きくなった。80年には田44ha、畑38haでそれぞれ全体中の5.5%、12.9%に及んでいる。

賀陽町 1965年に耕作放棄地は27haであった。これは以後増加し、75年には52haとなり、対耕地面積比率2.7%となった。耕作放棄のあった農家数は373戸で、全農家戸数の19.2%である。耕作放棄農家1戸平均14aほどの耕作放棄である。65年にはそれは田3ha、畑24haであったが、80年には田25ha、畑22haでそれぞれ全体中の1.8%、4.7%となっている。

総じて加茂川町は全県よりも耕作放棄地の割合が大きく、賀陽町の場合は小さいが、いずれにしても耕作放棄がかなりみられたのである。

(5) 採草地・放牧地の利用放棄

第13表にはあわせて採草地・放牧地の推移を示してある。加茂川町では1960年に672haであったものが、85年には36haとなった。この間に636ha、94.6%の減少があり、当初のわずか5.3%となった。賀陽町は当初835haであったものが21haとなり、この間に814ha、実に97.5%の減少率で、当初のわずか2.5%となった。岡山県全体はこの間に22,652ha、92.9%の減少率であり、当初の7.1%であるので、この両町は全県を上回った。採草地・放牧地の著しい利用放棄が進行したのである。

(以下次号)